



「現場を知ること、体験から学ぶこと」の大切さ

先日、職員室の机の上に置かれていた『教育情報誌 きょうこう 2020秋号 vol.33』(「公益財団法人日本教育公務員弘済会」発行)に目を通して、日本の登山家で環境活動家でもある野口 健(のぐち けん)さんの『わたしらしく〜巻頭インタビュー〜』が目にとまりました。(右の写真)

野口さんは、テレビに出演するとよく登山中の面白い話、知らないことやためになる話、興味深い話などをされていたので、私は彼が出るテレビはいつも楽しみに見いていたこともあり、このインタビュー記事は、興味をもって一番に目を通しました。

『現場を知ることから全てが始まる』という題がつき、『エベレストから学んだこと』『変化する子どもたち』といった内容のインタビュー記事がそこには綴られていました。

野口さんは、16歳のとき「世界7大陸最高峰登頂」という目標を立て、25歳で達成しました。エベレストは3度目の挑戦で成功し、多くのことを学びました。その一つがゴミ問題、環境問題だそうです。世界最高峰への登頂は、決して一人の力では達成できません。日本人や現地の数多くのスタッフの支えがなくては山のテツペンには立てません。キャンプを張り、何日もかけてアタックするのです。

以前読んだ本に書かれていたのですが、高い山ではキャンプを張れる場所がだいたい決まっています。世界中の登山家が、ほぼ同じ場所でキャンプを張り、そこには大量のゴミが残されていると書かれていました。使い切った酸素ボンベや壊れたテント、食器、空き缶などが大量に捨てられているのです。ゴミの下に更にゴミがあるというのです。そこには、かつて日本隊が捨てていった大量のゴミも含まれており、野口さんは外国の隊員からこんなことを言われたようです。「日本の経済は一流だけど、マナーは三流だな。」

その言葉をきっかけとして、後に清掃登山を実行するようになりました。エベレストから持ち帰った日本人のゴミを、周囲の反対を押し切って展示したり、マスコミに現状を訴えたりしたのだそうです。

インタビュー後半によると、野口さんは今、日本全国の小学校で「環境学校」を通して子どもたちと関わり、間伐して明るい森を一緒につくったり、地域の清掃活動をしたりしているそうです。現場で体験することにより、環境問題を自分の言葉で話せる子どもを見たとき、頼もしいと感じると言っています。

さて、私たちの日常生活に目を向けてみると、改めてゴミの問題に注目が集まりそうです。プラスチックゴミによる環境汚染の問題は深刻です。生徒のみなさんも知ってのとおり、今年7月からレジ袋が有料化されました。家庭ゴミの多くは、食品包装用の袋やパック類と言われています。また、ビニールやプラスチックに代わる紙製品も場合によっては、再利用に出したり、ゴミとして出されたりしています。

みなさんには、空き缶やペットボトルの分別や再利用はもとより、野口さんのインタビュー記事にもあったように、身の回りの身近なゴミ問題や環境問題について現状を知り、様々な体験等をする事により、自らの言葉で思いや考えを堂々と発言でき、ゴミの削減に自ら率先して取り組む人になってほしいと願っています。

2学期、そして2020年も残り1か月余りとなりました！

学校行事・学年行事が少ない中でも確実に暦は進み、2学期、そして今年も残り1か月余りとなりました。

今年の2学期は、9月の北中祭に始まり、1年生は福祉体験学習において、さまざまな立場で物事を考える機会を得ました。2年生は、職場体験学習の中止に伴い、キャリア教育の出前授業を受講し、社会の現状の一端に触れることができました。3年生は、5校の高校の先生方をお招きし、高校進学説明会を、そして今日まで2回の基礎学力テストを受検し、具体的な進路選択をするにあたっての各個人の現在身につけている学力を見定めているところです。残りの約1か月、生徒のみなさんは、一人一人が目標に向かって前進あるのみです。

新型コロナウイルス感染者数が、全国的に増えています。新しい生活習慣をもう一度見つめ直し、引き続き感染を防ぐための取組をお願いします。そして、元気に2学期・2020年を終えられるようにしてください。



野口 健

「現場を知ることから全てが始まる」

「エベレストから学んだこと」

16歳のとき「世界7大陸最高峰登頂」という目標を立て、25歳で達成しました。エベレストは3度目の挑戦で成功し、多くのことを学びました。その一つがゴミ問題、環境問題だそうです。世界最高峰への登頂は、決して一人の力では達成できません。日本人や現地の数多くのスタッフの支えがなくては山のテツペンには立てません。キャンプを張り、何日もかけてアタックするのです。

以前読んだ本に書かれていたのですが、高い山ではキャンプを張れる場所がだいたい決まっています。世界中の登山家が、ほぼ同じ場所でキャンプを張り、そこには大量のゴミが残されていると書かれていました。使い切った酸素ボンベや壊れたテント、食器、空き缶などが大量に捨てられているのです。ゴミの下に更にゴミがあるというのです。そこには、かつて日本隊が捨てていった大量のゴミも含まれており、野口さんは外国の隊員からこんなことを言われたようです。「日本の経済は一流だけど、マナーは三流だな。」

その言葉をきっかけとして、後に清掃登山を実行するようになりました。エベレストから持ち帰った日本人のゴミを、周囲の反対を押し切って展示したり、マスコミに現状を訴えたりしたのだそうです。

インタビュー後半によると、野口さんは今、日本全国の小学校で「環境学校」を通して子どもたちと関わり、間伐して明るい森を一緒につくったり、地域の清掃活動をしたりしているそうです。現場で体験することにより、環境問題を自分の言葉で話せる子どもを見たとき、頼もしいと感じると言っています。

さて、私たちの日常生活に目を向けてみると、改めてゴミの問題に注目が集まりそうです。プラスチックゴミによる環境汚染の問題は深刻です。生徒のみなさんも知ってのとおり、今年7月からレジ袋が有料化されました。家庭ゴミの多くは、食品包装用の袋やパック類と言われています。また、ビニールやプラスチックに代わる紙製品も場合によっては、再利用に出したり、ゴミとして出されたりしています。

みなさんには、空き缶やペットボトルの分別や再利用はもとより、野口さんのインタビュー記事にもあったように、身の回りの身近なゴミ問題や環境問題について現状を知り、様々な体験等をする事により、自らの言葉で思いや考えを堂々と発言でき、ゴミの削減に自ら率先して取り組む人になってほしいと願っています。

『教育情報誌 きょうこう 2020秋号 vol.33』
「公益財団法人日本教育公務員弘済会」より引用

PROFILE

野口 健 のちけん

アビニスト、1973年8月21日、アフリカ・ボツワナ生まれ。東海大学卒業。
高校時代に緑川町長の養育(養育員に選ばれる)に縁があり、動物飼育に興味を持つ。自然保護活動に従事。2000年からエベレスト登山を目指して登山活動。登山には専念せず。2007年エベレストに挑戦。登山中に遭った雪崩で、右足は骨折した。登山中に遭った雪崩で、右足は骨折した。登山中に遭った雪崩で、右足は骨折した。登山中に遭った雪崩で、右足は骨折した。

